

《令和六年度 暗唱③》

杜子春

芥川龍之介

或 春の日暮れです。

唐の都 洛陽の西の門の下に、

ぼんやり空を仰いでいる、一人の若者が
ありました。

若者は 名は 杜子春といって、元は
金持の息子でしたが、今は 財産を
使い尽くして、その日の暮しにも困る
位、憐な身分に なっているのです。

何しろ その頃 洛陽といえは、
天下に並ぶものがない、繁昌を 極め
た 都ですから、往來にはまだ
しつきりなく、人や車が 通っていまし
た。